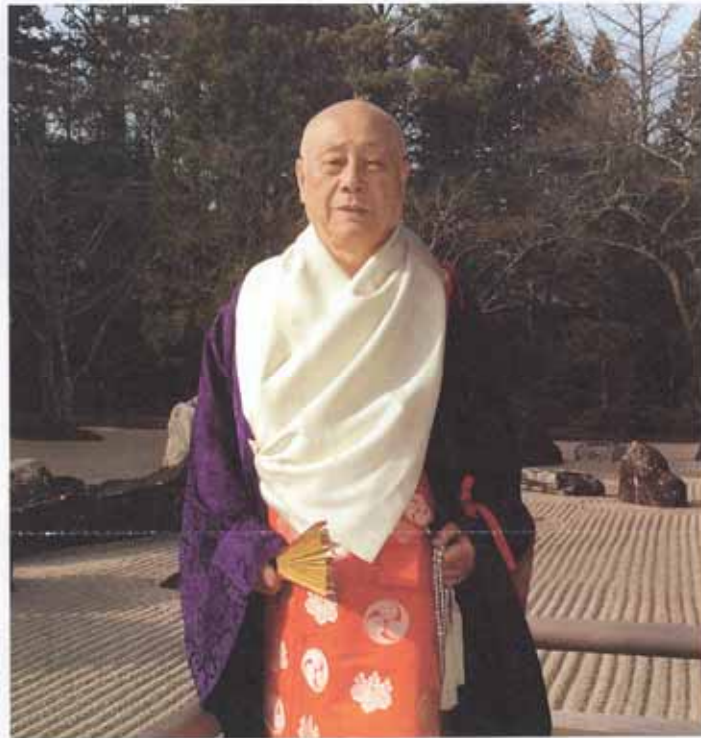


仏教が生んだ日本語

「遊び」

これは決してブツダが遊びほうける
というような意味ではない。「住む」
「巡り歩く」「くつろいで留まる」
「ゆったり過ごす」という意味である。

仏教では、巷を説法して歩き回ること
を「遊行」と言い、「遊戯」現代語
でユウギと発音する、これは菩薩の自由
自在な活動のことで、仏の境地に徹
して人々を導き、これによって自らも
喜び楽しむことである。



お山の靈氣に包まれて

管長さん 年頭挨拶

高野山真言宗管長
総本山全明華寺座主

松長 有慶

平成戊子の新春にあたって、全
国の真言宗教師の諸大師、そして
日頃、大師信仰にお勤みの御信徒
の皆様と、お慶びを共にいたした
く存じます。

粗山も平成二十年の初日の出を
迎えました。奥の院の御廟前にひ
ざますき、今年の平安を祈る人の
列がひっきりなしに続いていま
す。

伽藍の明神社にも、初詣の晴れ
着姿の方々が訪れます。やがて奥
の院の遊園堂と伽藍の金堂では、
高野山の御住職の方々の修正会が
厳かに執り行われることでは
う。

お山は新しい年を迎え、大勢の
参拝の方々が賑わっています。と
はいえ奥の院の参道や、伽藍の周
辺の千古の大樹に取り囲まれた聖
域では、いつもながらの靈氣に満
ちた静寂が漂っています。

この神秘の空間に身をおく時、
おのずから身の引き締まる思いが
いたします。それと同時に、日頃
の心の中に蓄積したさまざまな垢
や汚れが、知らず知らずのうちに
消散してしまう不思議な雰囲気
が自然とともに出されております。

高野山はケープルカーの駅と一
山の玄關口に当たる大門の周辺を
除いて、山内に一歩足を踏み入れ
ると、下界を見下ろすところが何

処にもありません。さらに高い
山々にすっぽり取り囲まれて、寺
院だけではなく、民家もまた大自
然の中にひっそりと息づいていま
す。

高野山の全体が、すべてのもの
をやさしく包み込む雰囲気を持っ
ていますが、それはお大師さまの
教えの特徴の一つでもあります。

お大師さまは生きとし生ける者
みんなが一つにつながっている
というお考えで、あらゆるものに、
等しく救いの手を差し伸べられま
した。

地球上では民族間の争い、宗教
間の対立抗争が絶えず、家庭でも、
いざがいがしばしば起こっていま
す。自分のほうの一方的な立場だ
けを正当化せず、相手の立場にも
思いやりを及ぼし、憎い相手も包
み込む生き方を奨励す場を、お大師
さまが開かれたお山は用意してい
るのです。

高野山は七百年後に開創千二百年
の節目を迎え、今その準備に取り
掛かっています。高野山真言宗は
未来に向かって平和な社会を実現
すべく、その場を用意する役目を
果たすことでしょうか。私もまた及
ばずながらその先頭に立って、そ
のお手伝いをさせていただきたい
と、年頭に当たり決意を新たに
いたしております。

空海の言葉 シリーズ

心病の本はただ一つ

無明これなり

心の病気の根元はただ一つ、
道理に暗いことである

人間はこの社会のなかで、金持ちは金持ちなりに、貧し
ければ貧しいなりに、四苦八苦しています。
四苦八苦とは、肉体の苦しみの四つのほかに、心の苦し
みの四つを合わせて、「八苦」とします。

一つ目の苦しみは「愛別離苦」といって、どんなに愛し
ている恋人や家族とも、いつか別れの日が来るといって苦し
み。

二つ目の苦しみは「怨憎会苦」といって、二度と顔を見
たくないほど恨み憎むような相手と、心ならずも出会う破
目になる苦しみ。

三つ目は「求不得苦」といって、なにかをほしいと求め
ても得られない苦しみ。

四つ目は「五蘊盛苦」といって、健康をもてあましてい
るのに、はげ口のない苦しみです。

この四つの苦しみのどれかが積もり積もると、毎日、も
んもんともたえ苦しむ、やがて不眠症、ノイローゼ、躁鬱
病といった精神病（心の病い）になります。

肉体の苦しみよりも、心の苦しみのほうが始末が悪いので
す。

では四つの苦しみから起こる心の病いの、根本の原因は
いったいなんでしょう？

それは「無明」というものです。これを道理に暗いこ
と、と訳しましたが、弘法さんは、「こついわれていきます。」

人間にはみんな欲があります。困ったことに、その欲は
際限なくどこまでもふくらんでいきます。

それがうまくいかなくなると、すねて機嫌が悪くなりま
す。もつともうまくいかなくなると、むかついて、いらいら
してきます。悲しいかな、これが自分のわがままな心から
出ていることに、まだ本人は気がついていません。
この心が恐ろしい心病にかかるのですが、それを知らな
いのを、道理に暗いことなのです。